

今、想えば～価値観変化を考える～

（一社）地域国土強靱化研究所に参画して、一年が経った。安原代表理事の想いを知ってか、知らずか、勝手に誘われるように仕向けていたのかもしれない。シニアが頑張れる時代、60歳定年から65歳定年と変わり、小生は65歳を過ぎた今、何かしらでも自分にできることがあれば、働きたいと考えるようになった。以前は悠々自適な生活を過ごすことが、理想だったのかもしれない。その裏には、働くことが愉しいと思える価値観変化がある。趣味や好きなことが伸ばせれば、一躍有名人となり、仕事化となる。働くことが、時間を売るといった価値観は変わった。旧態以前たる価値観に囚われると、生きづらくなる時代となった。

若い頃、自分の家を持つことが夢だった。それが今、少子高齢化ということで、親世代の家を受け継ぐことの負担、自分の家の処分を子供に託す負担感が時に頭をよぎる。自動車は希少かつ高級であった子供時代、その結果マイカーという夢を手に入れられるようになった。最近では、トヨタ自動車の「KINTO」サービスに代表される「サブスクリプション」なるものが始まった。民泊、ライドシェアリングに代表される「シェアリングエコノミー」となると、なかなかついていくことが難しくなる。ただ、私の専門である、データ連携、データ流通を考えるとマッチングサービスとしてのプラットフォームビジネスが急伸してきている。「メルカリ」然り、複数のターゲットを結びつけるという、自分自身では何も造らず、関係性を創ることになる。以前は金融機関が融資という手段により、専門家として複数のターゲットを結びつけてきた。これが、情報をオープンにし、オンライン化することにより一般市民という非専門家でも参加できる市場を提供可能とした。また、インターネット利用から始まった「ベストエフォート」なる考え方も一般的になった。言い方を変えれば、最大限努力はするが、エラーもあることを前提としたサービス提供の考え方である。

これまでの日本的技術の考え方からすると、まずは品質ありきである。また、私的所有が前提であった。品質とコストのバランス、社会的所有という考え方、価値観に馴染まねばならないと思うと同時にシニア技術者として今までの価値観を知っているからこそ、逆転の発想、アイデア勝負ができるものと考えている。ただ、私達シニア技術者はこの価値観変化が適用されない分野も知っている。安全・安心、環境等に関わるものである。SDGsに代表される基本理念と価値観はこれまでの経済、社会の歴史的流れから帰結されたものとして、堅持していきたいと一人想いを馳せている。

副代表理事・須田 裕之
(2021年6月26日)